

市政に対する一般質問

一般質問は、提出された議案にかかわらず、市政全般に対して、議員が執行者の考え方をたずねることができるものです。

6月定例会では、6月15日・16日の本会議で13人の議員から質問が行われ、論議が繰り広げられました。以下は質問・答弁の概要です(掲載は質問順、5ページまで続きます)。

市内の名所旧跡めぐりにも役立つ案内表示板の設置を

公明党 井上 賢一

問 市内の名所旧跡のうち、特に城山公園は、車で利用する方にとって分かりにくい場所にある。そこで、市外の方が公園を訪れる際や市内の方が道案内をする際に利用できるような案内表示板を設置しないか。あやせタウンガイドは、市のさまざまな情報が盛り込まれており、高く評価

している。市民がいつでも利用できるように、拡大した地図を市役所玄関前に設置する考えはないか。また、本市には外国籍の方が多く居住しているので、各小・中学校に設置してある広域避難場所の看板に、英語表記をしてはどうか。

答 城山公園は、自然あふれる公園として、市外からも多くの方が訪れている。現在、寺尾上土棚線の交差点名に、「城山公園入口」と表示しているが、より分かりやすく案内するため、寺尾上土棚線から公園までの交差点に、案内板の設置を検討する。また、主な市の施設にも設置を検討していく。玄関前への案内板設置は課題も多く、催し物などを紹介する電子看板での対応を考えている。併せて、休日などにタウンガイドを配布する体制を整える。避難場所の看板は、誰にでも分かりやすくするため、JIS規格で標準化された表示方法へ変更する。(ほかに「児童虐待について」「小児医療費助成について」を質問)

外国籍住民の増加に伴う施策を市民と共に考えないか

安藤多恵子

問 本市は、外国籍住民の割合が県内の市の中で1位である。外国籍住民の増加で、教育、福祉、社会保障などの課題も深刻になりつつある中、ともに生きる社会づくりのためには「自立した綾瀬市民」に

なってもらう施策が重要である。新時代 あやせプラン21の後期基本計画案では、国際化に関する具体的施策が足りないと思うが、多言語による行政情報提供の充実や日本語教室への支援などが必要ではないか。また、本市の「国際化」に対するあり方を構築するた

めにも、市民とともに検討する場の設置を考えないか。

答 外国籍住民の増加や定住化が進む中、国際化施策は重要と考える。行政情報は、「あやせトウデイ」や市で発行しているパンフレットなどを多言語版で提供している。今後は、外国籍住民に理解しやすい紙面づくりや情報の提供方法などの充実を考えていく。日本語教室は、日本語を学び、風習などを理解する貴重な機会であり、自主的に教室を開催されている市民団体の方と意見交換していきたい。また、国際化施策の検討に当たっては、市民活動団体などと意見交換の場を設けられるよう、調整を図り進めたい。(ほかに「市民協働推進にむけた生涯学習のあり方について」「自然環境調査を市民と共に行わないか」を質問)

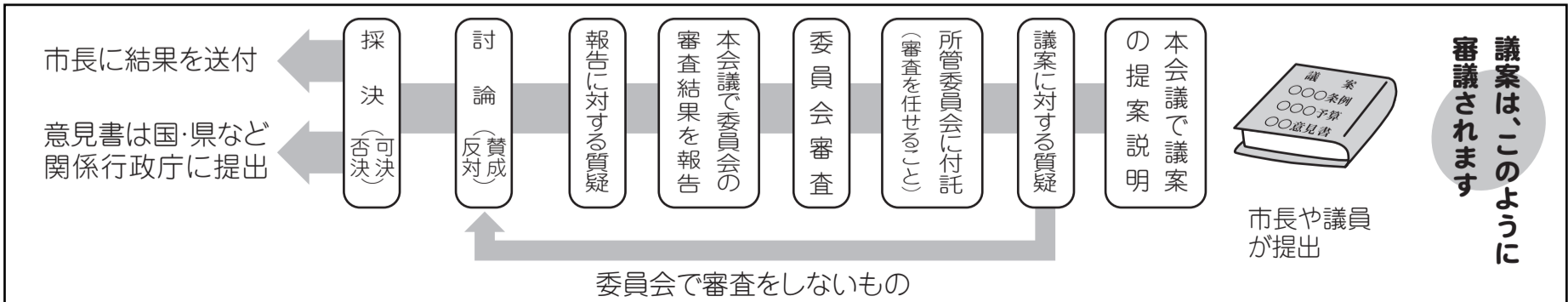
拡大している口蹄疫問題に本市ではどう対処するのか

市民会議21 比留川政彦

問 4月20日に宮崎県内で発生した口蹄疫は、瞬く間に県内全域に拡大した。多くの牛などが殺処分されているが、いまだに感染経路も解明されず、全国の畜産関係者に不安を広げている。本市は畜

産業が盛んで、農業生産額の多くを占めているが、危機管理の状況はどうなっているか。県の家畜集合センターで競りが実施されているが、進入車両への消毒は徹底されているか。また、このまま終息せず長引いた場合の畜産農家への対応は。周辺市や県と協力して広域的な対策を行う必要があると思うが市の考えは。

答 口蹄疫は感染力が強く、国際的にも最も注意すべき家畜伝染病である。市では畜産農家へ20袋ずつ消毒用消石灰を配布した。今後は防疫技術の講習を実施するなど、防疫体制の強化を図る。家畜集合センターでは、進入車両の消毒を行い、競りの開催時には場内全体の消毒を徹底しているとのことである。また、このまま感染拡大が続く場合



市長に結果を送付
意見書は国・県など関係行政庁に提出

議案は、このように審議されます
市長や議員が提出

委員会では審査をしないもの